

## 令和5年度 長田小学校学校評価結果についての考察

### (児童評価)

#### ○評価の高い項目

- ・先生はいじめなどの相談にのってくれる 93.6%
- ・学校は様子を伝えている 92.3%
- ・授業で友達と話し合っって学習する 91.5%

普段から担任の先生方のいじめへの対応や授業の進め方（授業改善）の成果が児童に浸透し結果に反映されていると思われる。いじめや相談に丁寧に対応してことが、児童にとって安心できる学校になっていることがうかがえる。また、学校からの連絡を家庭に持ち帰り、連絡体制が構築されている結果が反映している。学習指導についても、先生方の丁寧な指導が結果に反映されている。今後も継続していきたい。

#### ●評価の低い項目

- ・読書 65.9%

「たくさんの本を読んでいる」の設問が課題である。学校では、隙間時間等で読書に親しむ時間を見つけ、声かけをしていく。家庭には協力を仰ぎつつ、読書に親しむ習慣や本を開く時間を見つけていただくようお願いをしていく。もしかすると、設問の「たくさん」という言葉が引っかかって、回答が低くなっている可能性もあるため、設問を再検討していく。

### (保護者評価)

#### ○評価の高い項目

- ・学校のきまりを守る 97.1%
- ・いじめはいけない 96.6%
- ・安全指導、危機管理 95.3%
- ・学校の様子を伝えている 94.4%

普段から担任の先生方の規範意識・いじめへの指導が児童へ浸透し結果に反映されていると思われる。学校のきまりを守ることやいじめがいけないと認識し、家庭でも保護者にきちんと伝えていることがうかがえる。また、学校日より、学年日より等を「スクリレ」の電子化にしたことにより、保護者が確実に目を通していただける結果が反映している。同じく、安全指導への情報提供に関して同様に浸透し、今後も継続していきたい。

#### ●評価の低い項目

- ・読書習慣 46.5%
- ・英語の授業について話す 49.9%
- ・英語の授業かわかる 59.4%
- ・家庭で勉強 67.9%
- ・授業の様子についてよく話す 61.6%

読書習慣については、昨年同様低い結果となり、家庭での読書習慣に課題があることがうかがえる。読書習慣への啓発を行っていく。英語の授業の様子を家庭で話す機会を設けるためにも、学年日よりやおたより等で授業の様子を伝えていき、自信を持つような声かけを行っていく。家庭での勉強も昨年同様の結果のため、習慣化を図るよう実践事例を紹介する。

### (教師評価)

教師の評価については、年間2回実施し、前期での評価から後期にどのように変容したのを見取った。後期は、取り組みの重点化が図られ、数値が向上している。課題は、「語先後礼の定着」「体力テスト結果の活用」である。学校体制での課題の分析、取り組みの重点化が必要である。

### 児童アンケートより

「学校に行くのが楽しい」「あいさつができる」「生活リズム」「学校のきまり」「学習規律」「学校の勉強がよくわかる」「話し合いの学習」「集中して勉強」「先生はほめてくれる」「先生がいじめの相談にのってくれる」「安全な行動」「徒歩登校」の項目で80%以上の児童が肯定的な回答をしている。子ども達が学校生活に慣れ、行事の実施も通常に戻りつつある現状で満足しているものと思われる。特に、あいさつに関しては、昨年度からの取り組みが今年度も引き続き実施できており、取り組みの成果が出ている。

半面、読書については引き続き課題であり、家庭とも協力して取り組みについての理解を図っていく必要がある。

### 保護者アンケートより

「学校に行くのが楽しい」「あいさつ」「生活リズム」「基本的学習の定着」「いじめは絶対にいけない」「わかるまで先生は教えてくれる」「先生は児童の相談にのる」「安全指導・危機管理」「学力を高める取り組み」「学校の情報発信」「徒歩登校」の項目で80%以上の保護者が肯定的な回答を行っている。

課題は、読書習慣と家庭での親子の会話の機会、英語教育の理解の浸透である。英語教育については、児童は80%が「わかる」と回答しており、家庭での時間を見つけて、学校での様子を話す、もしくは授業参観の機会に周知を図っていく。

### 教師アンケートより

年間2回のアンケートより「基本的な内容が身につけている」「家庭学習の定着」「学力向上の組織的対応」「学校が楽しいための工夫」「生活リズムの確立」「不登校への対応」「安全指導」の項目で前回のアンケートよりも評価結果10%以上数値が上がった。

課題として、宜野湾中学校と足並みをそろえた取り組みの「語先後礼」への取り組みが低く、体力テストの結果の活用も課題である。取り組み後の成果と課題を教師が把握し、どのように児童に伝えていくか、学校の体制づくりが必要である。

### 全体的な概要

3者のアンケート全体を見ると、「学校が楽しい」と思えるような取り組みは成果を挙げている。特に、褒められたり、授業がわかるための工夫を教師が行ったりして、それに対して児童も分かりやすいと感じていることがうかがえる。

課題としては、児童・保護者に対して、家庭での親子の会話時間の確保をどう周知していくかであると言える。学校体制としては、体力テストの分析、「語先後礼」取り組みの強化が必要である。